

目指す学校像	～主役は子ども～「通いたい・通わせたい・働きたい」学校創り
--------	-------------------------------

重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」実現 2 「心の教育」の充実（「いじめ防止」含む） 3 「開かれた学校づくり」の推進 4 「学校の組織力」及び「教職員の指導力」の向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、学力及び質問紙調査ともに、全国・市平均と比べ概ね良好な結果である。「国語が好き」と答える児童の割合は「算数が好き」のそれより高い傾向がある。 ○さいたま市学習状況調査の結果から、基礎学力の定着に課題がみられる。 ○スタディ・サブリの活用度は全学年80%前後であり、デジタル機器の活用は進んでいる。 <課題> ○経験だけでなく、スクールダッシュボード導入によるエビデンスに基づいた効果的な支援を行う必要がある。	・「真の学力」の育成につながる主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・エビデンスに基づく基礎学力の向上の実現に向けた指導法の工夫改善	① 「学びの指標」を踏まえた学習者が主体的に学ぶ授業を実現する。 ② 教育研究所の学力向上カウンセラー研修等の活用及び目的を明確にした計画的な学校課題研究を通して、授業力の向上を図る。	① 「学びの指標」における主体的な学びが3.2以上となったか。 ② 教職員アンケートにおける関連項目の肯定的意見の割合が90%以上となったか。					
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、今年度も全国、市平均を上回った。 ○「いじめ見逃し0」をスローガンに、いじめの積極的認知を行っている。令和5年度のいじめ認知件数は31件である。 <課題> ○施設、設備の不具合等を原因とした怪我はないが、体育の授業や休み時間等の怪我は多い。 ○問題発生時、学年主任が複数対応に入ることが多く、負担が大きい。	・「自己肯定感」、「自己指導能力」の向上を目指した生徒指導・教育相談体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた取組の充実	① 情報端末を活用して児童向けアンケートや面談、生徒指導上の対応記録等を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握する。 ② 生徒指導・教育相談部会においてICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握・分析し、適切なタイミングで組織的に相談、支援等を行う。	① 教員アンケートにおける関連項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ② 児童アンケート、保護者アンケートにおける関連項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。					
3	<現状> ○コミュニティ・スクール5年目である。学校運営協議会は、昨年度から新しい体制となり、育みたい児童の姿を「他者との関わりを大切にする力」とした。SSNは実質1年目であり、育みたい児童の姿を各団体の視点から目指した。 ○学校だよりや学校HPによる情報発信や学校評価等の情報受信を重視したことで、学校評価「開かれた学校づくり」の項目で、92.8%の肯定的意見をいただいている。 <課題> ○学校運営協議会とSSNとの協働体制を強化し、「他者との関わりを大切にする力」の育成に向けた学校、家庭、地域の連携体制を強化する。 ○学校運営協議会等へ児童の参加はまだない。	・児童の自律につながる継続的な取組に向けた、学校運営協議会とSSNとの協働体制の強化 ・意図的・計画的な情報発信、受信、フィードバックの実施	① 学校HP内に、新たに学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ② 児童の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るため、具体的な方策を定め、学校とSSNが協働した取組を行う。	① 学校HP内に新たに学校運営協議会及びSSNのページを新設し、年間3回以上更新し、周知する。 ② 教職員及び保護者アンケートにおける、関連項目の肯定的な回答が90%以上となったか。					
4	<現状> ○日課表の見直しを行い、今年度から昼休みを復活させた。 ○一昨年度から放課後の会議・研修の時間が確保され、効果的に運用されている。 <課題> ○「教師が教える授業」から「学習者が主体的に学ぶ授業」への変革が求められる。 ○全教職員のICT活用スキルは高いが、各種アンケートの数値に結びつかない。本年度は、研究委嘱を活用し、ICTの効果的な活用について、研究していく。	・指導力向上を目的とした研修の充実及び「仕事の仕方改革」の推進	① 毎週木曜日の研修の時間を核に、研究委嘱を活用したエビデンスに基づく効果的な指導法を研究し、「学びの指標」を踏まえた学習者が主体的に学ぶ授業を実現する。 ② 一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を2学期末までに1回以上公開する。 ③ 見通しをもった業務遂行の視点から、人事評価面談を通し、一人ひとりの業務改善を促す	① 児童生徒の端末活用状況の向上及び「学びの指標」におけるICTの活用が3.2以上となったか。 ② 教員の人事評価シートにおける関連項目で、80%以上の教員が「b」を達成したか。 ③ 教員の人事評価シートにおける関連項目で、80%以上の教員が「B」を達成したか。					